

03 検体前処理の自動化

現在、日本の病院で病床数100床以上の大規模病院では外来患者数が1日500人以上になることも多く、一部の病院では日によって1日1000人ももの外来患者が受診しています。全員が採血を受けるわけではないにしても到底人手で処理を行える数ではありません。

勿論、人海戦術で捌ける可能性はありますがコストパフォーマンス、タイムパフォーマンスが悪すぎ、用手の介在はヒューマンエラーの原因にもなります。

病院が検査室に配属できる人員数は決して多くありません。その中で検体前処理に人手をかけるということは、検査業務や医師の診断の遅れに繋がり、診断の遅れは患者さんの治療が遅れることとなります。検体前処理に人手を取られ検査が遅れるとなれば本末転倒です。



03 検体前処理の自動化

現在この検体前処理の工程を検体搬送システムで自動化することで人的・時間的な省力化と検査技師の感染リスクヒューマンエラーの低減が望めます。

検体搬送システムの機能をおおまかに表すと下記のようになります。

- | | | |
|-----------|--------------|----------|
| 1. 検体到着確認 | 5. ラベル発行 | 9. 検体収納 |
| 2. 仕分け | 6. 分注 | 10. 再搬送 |
| 3. 遠心分離 | 7. 各分析装置への搬送 | ※再検査・再収納 |
| 4. 開栓 | 8. 閉栓 | |

各工程が自動化されることに検体搬送システム最大のメリットがあります。アイディエスの検体搬送システムは機能ごとにユニット化されており、I、L、H、U、T字型の搬送レーンを使用することによりフレキシブルにレイアウトすることが可能です。